

売れる米づくり技術情報 (No. 2)

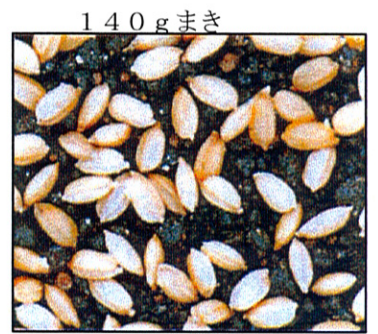
～ なんかん米 光る粒張り 粒ぞろい ～

平成21年4月10日
JAにいがた南蒲
三条農業普及指導センター
長岡農業普及指導センター

品質向上対策3本柱！ ①適正籾数確保 ②後期栄養・水の確保 ③土づくり
(小さな稲づくり) (粒張りの良い米づくり) (気象変動に強い稲づくり)

20年産が・・・

- 品質・収量アップ(笑) ⇒ 的確な穂肥施肥や出穂前後の水管理と適期刈取の成果!!
⇒ 本年も基本技術の実行で高品質安定化を目指しましょう!
- 倒伏・品質ダウン(泣) ⇒ 幼穂形成期の栄養過多と籾数過剰や後期栄養不足
⇒ 基肥量の見直しや中干しの確実実施で過剰生育を防止
⇒ 生育診断に基づいた穂肥実施(時期と量)



☆ 播種は4月20日頃! 田植えは5月10日頃!!
早すぎる作業は危険がいっぱいです。 問題点・必要性・・・ 4月上旬の播種では気象災害の危険が高い
(・播種後の低温による育苗障害 ・生育ステージが早期化し、高温下での登熟により品質が低下)

1. 播種から苗管理まで (作業日めやすは稚苗加温で5月10日頃田植えの場合) ※播種以前の技術対策等については、前号(No. 1)でご確認をお願い致します。

健苗育成のために薄まきしましょう。

播種 めやす 4/20~	種	一箱当たりの播種量 (g)		10a当たり必要箱数のめやす 17~20 箱
	苗	乾もみ 130~140	催芽もみ 165~175	

芽の伸ばしすぎに注意して、軟弱徒長を防止しましょう

出芽期 めやす 出芽長 0.5~1 cm		加温育苗	無加温育苗
	日数	2~3日	4~6日
	温度	30℃	30~15℃
	かん水	播種時に十分かん水	播種時に十分かん水し、4~5日して出芽状況を確認した際に、乾いていたらかん水する

晴天時などの急激な温度上昇に注意しましょう

緑化期 めやす 2~4日	温度	日中 20~25℃ 夜間 15~18℃	※夜間10℃以下にならないよう注意する。
	かん水	1日1回 午前中に行う(10時頃まで) (こしいぶきは苗丈を確保するため1日程度長めに緑化)	
	換気	換気はこまめに行いましょう	

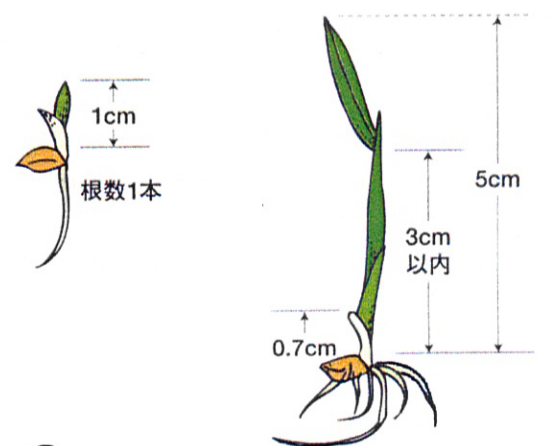
硬化期 めやす 13~15日	温度	日中 15~20℃ 夜間 10~15℃	※8℃以下にならないよう注意する。
	かん水	前半は1日1回(午前中)、後半は1日2回(午後は3時まで)。 雨の日はやらない	

催芽状態



<出芽終了時>

<緑化終了時>



5月10日頃田植 ⇒ 8月5日頃出穂 ⇒ 品質向上!!

ワンポイント! 「良質米の安定生産には初期生育促進! ⇒ 田植後の水管理が重要!!」

- 昨年、田植え直後低温や風の影響を受けました。
- 田植直後はやや深水(3~4cm)として、保温的水管理とする。
 - 活着後は浅水として、水温の上昇をはかり分けつの発生を促し、良質茎の早期確保に努める。水温、気温が高いほど、発根活着が早いので漏水を防止し、水温の上昇に努める。
- また、効率的な防除のため、
除草剤や箱処理剤は、ラベルをよく読み誤使用無く規定量を確実に施用しましょう!

21年産コシヒカリBLの品種構成は20年同様です。

従来からコシヒカリは長稈で、極端な多肥は ①茎数過多 ②草丈・稈長が伸びて 倒伏を助長し品質を低下させます。

そのため、本年も、栽培指針にそった栽培管理に努めることが大切です。

「高品質」さらに「環境に優しい米づくり」へ

「20年産なんかん米コシヒカリ」から、従来の慣行栽培を3割減栽培へ移行いただいております。
農薬の使用回数(12成分数)と肥料設計(化学窒素量4.2以内)にご注意ください。
JA米要件として、慣行米との区分精算を検討しH22年産からの実施を目指します。

いよいよ春本番!
公道への泥等の落下にも
気を付けて!!

